

篠山竜青

KAWASAKI BRAVE THUNDERS #7 PG

日本代表
PGのふたりが

第三章 開幕から

最高の火花を散らす。

富樫勇樹

CHIBAJETS FUNABASHI #2 PG

日本代表でもポイントガードを担う千葉#2 富樫勇樹と川崎#7 篠山竜青。

同じポジションながら、一方は外国籍選手にも引けを取らないチームトップクラスのスコアラー、

もう一方はアシストでチームをコントロールするゲームメーカーと、

両選手のプレースタイルには大きな違いがある。

2017年11月12日(日)のアルバルク東京戦で3Pを11本成功させ、自身のキャリアハイとなる

42得点を叩きだした千葉#2 富樫は、高確率の3Pや簡単には止められない

スピードのドライブを武器とする超攻撃型。昨季のレギュラーシーズンで記録した

1試合平均15.7得点はチームの日本人選手トップで、今季も次々と得点を重ねる#2 富樫のプレーを楽しみにしているブースターも多いはずだ。

対する川崎#7 篠山は、視野の広さを活かして流れるようなチームの連動を図り、的確なアシストで

#14 辻や#22 ファジーカスからスコアラーに貢献する生粋の司令塔型だ。

また、アグレッシブなディフェンスにも定評があり、強豪オーストラリアから大金星を挙げた

今年7月の代表戦では、第4Q 終盤にディフェンスリバウンドから勝利に繋がるファストブレイクを決めている。

昨季はレギュラーシーズン、クォーターファイナルともに激しいマッチアップを繰り返してきた両選手。

代表がかなりの躍進を遂げていることを考えると、同じポジションのライバル同士、

その勢いはより一層加速し、さらに白熱した駆け引きを見せてくれるはずだ。

もちろん千葉#2 富樫が魅せる外国籍選手への息の合ったアシストも、

川崎#7 篠山がここぞという場面で沈める一投も、両チームのブースターは大いに期待しているだろう。

今季最初で最後となるレギュラーシーズン直接対決。

両チームのガード対決からは、一瞬も目が離せなくなりそうだ。

